



いきいきふるさと

発行/古里住民自治協議会 発行者/金子 祐三 編集/広報委員会 第66号

誰もが安心して生活できる 安全な地域づくり

福祉健康部会

第三次古里地区地域福祉活動計画の策定

- ①地域福祉を推進するための基盤をつくる
- ②一人ひとりの思いをつなげ、様々な担い手が連携できる仕組みをつくる
- ③一人ひとりの思いを受け止め、福祉サービスや支え合い活動を充実する



支え合い活動検討会の開催

古里地区の「支え合い活動」について地区全体で情報を共有し、より良い活動が行えるよう支援していくことを目的として、全体会議を実施した。【5月12日】



福祉推進員研修会の開催

長野市社会福祉協議会から講師を招き、地域の現実と福祉の必要性、福祉推進委員の役割ならびに活動事例について研修会を実施した。【5月14日】



ふるさとの縁側の開催

誰もが気軽に集まって交流できるまちの縁側に体操の機能を持たせ、脳トレ体操やラジオ体操を月一回15分程度、古里総合市民センターロビーで実施している。【6月14日】



子育てサロンの開催

親子の触れ合いや遊戯を利用して楽しんだり、子育て中のお父さん、お母さん、おうちのみなさんとの情報交換の場として、古里地区民生委員児童委員協議会と共に毎月第4月曜日に実施している。【6月28日】

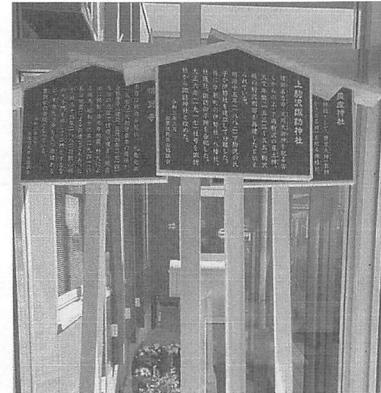
自然豊かな我が郷土古里

古里AKB事業

ふるさと部会

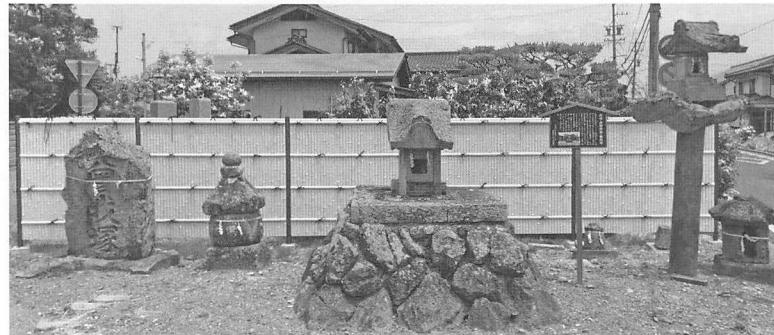
地域の皆さんに少しでも興味を持っていただきますようにと、古里地区史跡マップに記載された名称旧跡に案内板の設置事業を行ってまいりました。看板設置事業の完了と共にもう一度、地域の美しい自然と歴史を再確認してみてはいかがでしょうか。AKB事業とは、みんなで歩いて{A}、考え{k}、ビューティフル{B}、な地域づくりの一環で実施したものです。

案内板は縦35cm、横48cm、高さ1m50cmのヒバ材を使って、「入り看板」式で文面は出来るだけ分かり易いように工夫しました。



みんなで歩いて 史跡めぐり

虎塚・虎御前塚・曾我塚(上駒沢)



上駒沢の虎塚は「五道の辻」に、曾我塚・虎御前社にはさまれて建っている五輪塔で、その型式から善光寺信仰が盛んになった鎌倉末か室町期に建てられたと言われている。五道の辻には、このほか雨乞いの際に倒すと、たとえ2・3粒ではあっても雨が降ると伝えられる虎御石と秋葉社、庚申塔が並んで祀られている。

三才山遊歩道(西三才)



県道長野豊野線から北部スポーツ・レクリエーションパークへの道路途中からパークへ行く遊歩道がある。その途中の高台に「望郷岬」と名づけた展望地がある。近くは、善光寺平東北部一帯、遠くは志賀高原の東館山から菅平高原まで一望できる。十数秒間の新幹線の走りが見られる。ここからの夜景は一見の価値がある。

駒沢川堤防の桜並木(新町・第二団地)



春



秋

新町団地と第二団地の間を流れる駒沢川の堤防に咲く桜は絶景。花見の名所。昭和41年(1966)に駒沢新町団地が、昭和47年(1972)に駒沢新町第二団地がそれぞれ誕生。新町団地側の堤防道路は、徳間小学校、国立長野高専の児童・学生の通学路にもなっている。

富竹陣屋跡(富竹)

かんせい いわみ
寛政4年(1792)から天保8年(1837)まで、石見の国(島根県)松平周防守の陣屋が置かれていたが、現在は民有地になっている。割元を務めた徳永氏に陣屋稲荷・庚申等が、宮澤氏宅には長屋門造りの陣屋門が現存している。片番所式の出張陣屋で、正面には高張り三つ道具が置かれている。

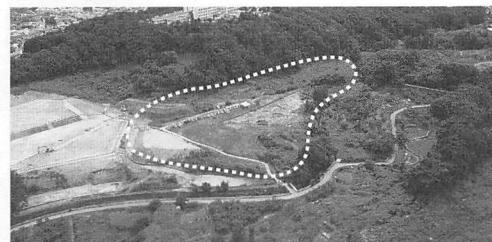
富竹のビャクシン(富竹)

所有者の徳永氏は、元弘誓の庄屋で天保年代は500石を領し、館もあったが、浅川の氾濫により現在地に移転した。当時、そこにイブキなどの雑木林があり、屋敷木として他の

木が伐採され、イブキ・けやきが残存し、今日のように老木となった。そんな由緒から、長野市指定天然記念物となっている。ビャクシン(イブキの別名)は、年数が増すごとに樹木・樹皮が白くなっていくことから名付けられた。

忠魂碑(下駒沢)

大正10年(1921)戦没者の慰靈のため、在郷軍人会が古里小学校西側に建立したが、戦後連合軍総司令部の通達により撤去した。昭和27年(1952)、遺族会が村内より寄付を募り、現在地に再建し、同年9月21日、慰靈法要を行なった。戦死者96名(戊辰戦争から太平洋戦争まで)の氏名が刻み込まれている。

籠沢遺跡(三才)

北部スポーツ・レクリエーションパーク建設に伴い発掘調査が行なわれ、170軒を超える住居跡が発見された。人が住み始めたのは縄文時代で、一時集落が絶えたこともあったが、古墳時代から平安時代には大きな集落が形成されていた。7世紀末の円面鏡が出土していることから、すでに文字を使う役所が三才にあったことを示している。

浅川の今

古里地域の川は、浅川を本川として駒沢川、新田川、及び田子川に接し、昔より天井川で水害に苦労して参りました。

たびたび決壊して洪水災害を引き起こしてきました。昭和52年より国、県により改修工事が行われ浅川の改修、ダム建設により安心して生活できる古里になりました。



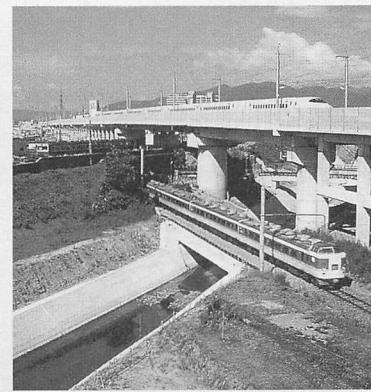
浅川で遊ぶ子ども達



天井川の様相をみせる浅川(弘誓大橋付近)



完成後

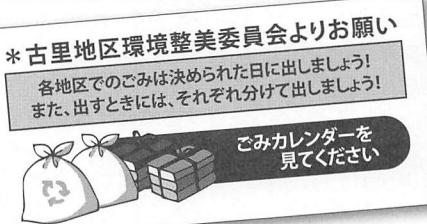


改修後の浅川

春のゴミゼロ運動・河川一斉清掃を実施

各区の環境整美委員会では、ごみのない美しい地域環境をつくるため、毎年春と秋の2回「ゴミゼロ運動」と「河川一斉清掃」の日を定めて実施しています。今年も皆様のご協力により道路や河川がきれいになりました。

ゴミの量は年々減少傾向にあり、市民のマナーも向上してきていることは嬉しいことですが、今後ともさらなる削減に努めていきましょう。



実施日：4月末～6月初旬

実施場所：ゴミゼロ運動は各区の主要道路など

河川一斉清掃は浅川、白山堰、新田川、駒沢川、田子川

参加人数(全区)：770名

回収物(全区)：可燃ごみ…294kg、不燃ごみ…144kg、

缶・ビン…40本、ペットボトル…29本、草袋…273袋



災害時の

情報収集等に関する協定を
ネット古里と当協議会で締結

災害時や防災訓練時には無線で情報を収集・伝達することが重要です。現在、デジタル簡易無線とアマチュア無線によるものがあります。デジタル簡易無線は、誰でも使用できますがチャンネル数が限られ通信範囲が比較的狭くなっています。

令和元年台風19号の災害時、アマチュア無線が大いに役立ち、その機能を再認識しました。従来から災害時などは連携していましたが、改めて「アマチュア無線クラブネット古里」と無線による活動について協定を締結しました。

今後も連携して
地区内の防災力向上
に努めます。



緊急消防援助隊による新規装備品の運用開始セレモニーが開催されました

安心・安全部会

5月21日(金)に北部レクリエーションパークにて標記セレモニー及び訓練披露が行われました。これは、令和元年東日本台風災害等を受けて、緊急消防援助隊の装備品として国から長野市に配備され、令和3年6月より運用開始されるものです。「津波・大規模風水害対策車」は鶴賀消防署柳原分署に「高機能救命ボート」は篠ノ井消防署塩崎分署に配備され、いずれも長野県には初めての装備品です。

当日は、設置されるまでの経過説明と加藤市長からのお挨拶をいただいた後、両装備による実施訓練が披露されました。水陸両用の人命救助車両バギーと一度に20名の救助が可能となる高機能救命ボートによる実践訓練は真剣そのもので、今後の災害等には大きな役割を果たしてくれるものと期待されます。

